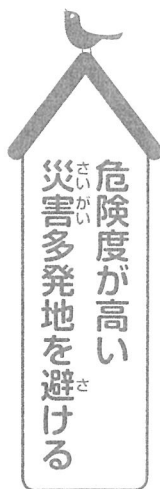


## 地域を愛する心が 防災力を高める

2011年3月の東日本大震災<sup>だいしんさい</sup>以来、防災への意識<sup>いしき</sup>や関心は高まりつつあります。防災意識を高めていくために根本的に必要となる視点や考え方についてお聞きしました。

名古屋大学減災連携研究センター 教授・センター長 福和伸夫

私たちの住む日本列島は、気候的にはアジア・モンスーン地帯に位置<sup>ちか</sup>していて、地殻<sup>ちかく</sup>は複数のプレートが折り重なる境界にあります。そのため、土はとも崩れやすく、風水害や土砂災害が多く、さらには地震<sup>じしん</sup>の多発地域となっています。



### PROFILE

ふくわ・のぶお ● 建築耐震工学や地震工学に関する教育・研究の傍ら、地域の防災・減災の実践に携わる。民間建設会社の研究室で10年間勤務した後、名古屋大学工学部、先端技術共同研究センター、大学院環境学研究科で教鞭をとり、現在に至る。各地の地震被害予測や防災・減災施策づくりに協力しつつ、各地で出張講座を行ない、災害被害軽減のための国民運動づくりに努める。減災を通して克災し、それを地域ルネサンスにつなげたいとの思いで、減災のためのシンクタンク・減災連携研究センターを設立し、アゴラ・減災館を建設した。



このような地理的な背景から、私たち日本人は、度重なる災害を経験してきましたし、そのたびに、災害を克服し、災害に備えるための知恵を絞ってきました。

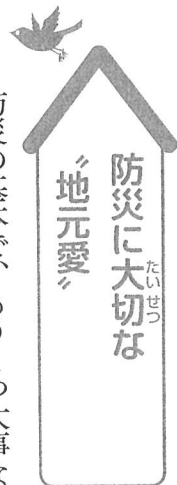
その知恵の中には、災害伝承によつて伝えられる危険地域の情報もあります。そのため、伝統的に人が居住している集落は、比較的災害の危険性が少ない場所に立地しているのです。

しかし現在は、沖積低地や湾岸地域に街や集落を広げたことによつて、多くの地域で自然災害への危険度が増しています。

防災の基本は「危険なところを避ける」ことですので、まずは自分が住む地域の地盤や成り立ち、または災害履歴を知ってほしいと思います。

そして、もし今住んでいる地域の地盤が弱いのであれば、十分な家具の転倒防止や耐震対策が必要ですし、想定される災害への適切

な備えもしていただきたいと思います。



防災の基本で、もう1つ大事なことは、一人ひとりが「生きる力を身につける」ことです。

災害が起きたとき大事なことは、人に頼らずに自分で生き抜くことです。また、そのような生きる力を持った人こそが、隣人や他者を助けることもできますし、その助け合いの積み重ねが地域の防災力の向上へとつながっていきます。

私は、そのような「自助」と「互助」を育む力となるのは、自分の住む地域、周囲の家族や友人を好きになることだと思っています。それはいわば「地元愛」とも言えるでしょう。

自分の住む地域やそこにいる人を好きになるからこそ、何か災害

が起きた際に、それを守ろうとする気持ち湧いてきますし、防災や減災の意識も育まれていくのです。

そして、地域の歴史や文化を大切にし、地元を良くしていきたいという思いは、地域の人の心をつなぎ、多くの人と力を合わせる原

## 起震車体験



## 煙体験



動力ともなります。

今、日本の地方では急激な高齢化が進んでいますし、若者はほとんど大都市へ流出しています。これは防災の視点で言うと、地域における助ける側と助けられる側のバランスが崩れつつあるということです。

若い世代が地域に残って活躍することは、安心・安全な地域づくりにとって非常に重要です。ですから、子どもの「地元愛」を引き出すかわり合いを、ぜひご家庭でも心がけていただければと思います。

### 自分事と捉える 防災教育の実践を

私はこれまで、多くの地域で防災意識向上のための講演を行ってきましたが、防災への意識が実際に「身に付く」までには、大きく3つのステップが必要だと思っています。

①気づき理解する

②体感し納得する

③自分事として捉え、実践する

これは家庭における防災教育でも同じことが言えると思います。

子どもたちへは、単に防災への理解を促すだけでなく、災害が現実的に「起こること」として、身近な問題として伝えることが必要です。

そこで、私たち名古屋大学減災連携研究センターでは、2014年3月に「減災館」をオープンしました。減災館は、産学官民が連携した防災・減災に関する最先端研究を行ない市民に学びの場を提供する防災教育拠点ですが、その一番の特徴は、体感・体験しながら防災について学べることです。

防災教育が単に知識の理解だけで終わらないように、これからも減災館を拠点に、防災意識向上への発信を続けていきたいと思っています。

## 望星 3月号

考える人の実感マガジン

2月15日発売

### 特集 街を旅する —見て歩いて記録する—

煙草屋に煙草を買いに行くのも旅—そう言った人がいますが、街歩きも当人が旅と思えば旅です。そこで大事なものは風景や物を見る目。ドイツ文学者の池内紀さんと評論家の川本三郎さんの対談を中心に、“どういう目で街を見ると楽しくなるのか？”を考えてみます。

定価(本体556円+税)  
年間購読料7,200円(税込)

### 好評発売中!

なぎら健彦氏 推薦!

### 戦後新聞広告図鑑

～戦後が見える、昭和が見える～

町田 忍 著

広告は世につれ、世は広告につれ。戦後の新聞紙面を彩った生活感あふれる愛しの新聞広告満載。

A5判・並製・176頁  
定価(本体1,800円+税)

～空を見上げて、珈琲を飲もう～

### 今日も珈琲日和

鶴巻麻由子 著

リヤカー屋台の小さな珈琲屋「出茶屋」店主のエッセイ。ローカルでスモール、スローな生き方がここにある。

四六判・並製・224頁  
定価(本体1,600円+税)

発売 東海大学出版部

☎0463-58-7811 FAX0463-58-7833

発行 東海教育研究所

☎160-0023 東京都新宿区西新宿7-4-3

☎03-3227-3700 FAX03-3227-3701

<http://www.tokaiedu.co.jp/bosei/>

減災研究の最先端が集結した体験型施設の「減災館」。親子で一緒に防災について学ぶことができます。



## 減災館

名古屋大学の敷地内にある「減災館」は、見て触って、体験しながら防災を学ぶことができる施設として、多くの人が訪れます。

最先端技術による揺れを再現した実験施設があるほか、実際に展示物に触りながら、体感的に防災について学んだり、防災の専門家から話を聞くこともできます。

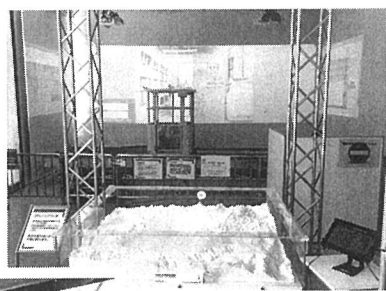
館内には、キッズコーナーも設けられ、防災をテーマにした防災かるたや、建物の揺れを見ることができるペーパークラフトなど、親子で楽しみながら防災について考えることができます。

### 減災館

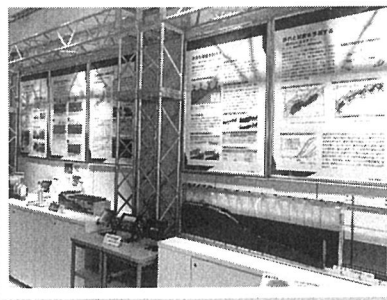
住所: 名古屋市千種区不老町 名古屋大学減災館

電話: 052-789-3468

開館時間: 火～土曜 13:00～16:00(第2・4火曜、祝日を除く)



CG技術とプロジェクター等の機器を用い、災害リスクを立体的に表現する3Dビジュアライズ。



地震や津波になどに関する体験教材とパネル展示のほか、市民向けの「減災カフェ」など身近に学ぶことができる施設です。